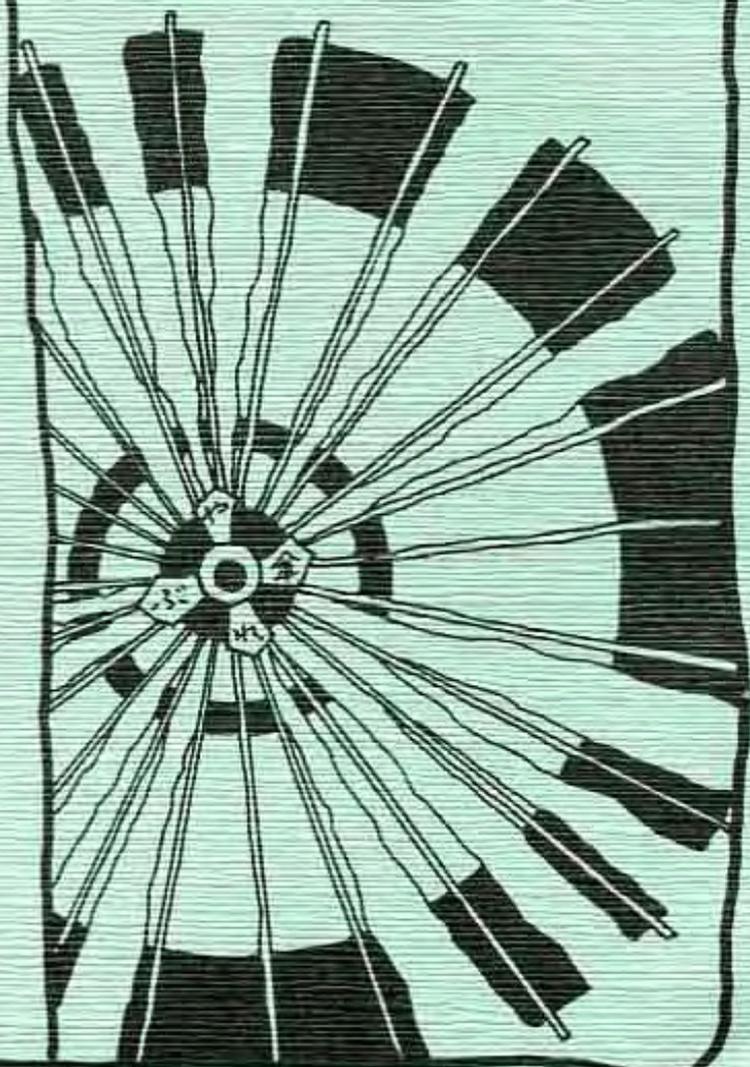


# やぶれ傘



九十四号

二〇一七年二月

数へ日の糸曳いてゐるセメダイ  
根橋宏次

冬萌は雨後のあをさとなりにけり  
大島英昭

冬の夜の真ん中にあるお猪口かな  
きくちきみえ

小上がりに餅花飾るそば屋かな  
廣瀬雅男

冬晴れの空へ三角屋根ばかり  
渡邊孝彦

チエロ弾きの皿へチップを四温の日  
丑久保勲

鳥総松かつて商人泊めし宿  
瀬島酒望

旧意匠復刻列車冬の月  
小山陽子

日脚伸ぶ縁に広げてヨガマット  
青谷小枝

雪だるまほつたらかしにされてをり  
白石正躬

四日午後近所の宮に詣でけり  
藤井美晴

自家用のひと畝のこる葱畑  
菊池洋子

風邪おして子は正眼に構へをる  
秋山信行

春隣洗濯物は揺れてゐる  
天野美登里

テラーの窓に冬服裏通り  
安藤久美子

抄 集 句 傘 れ ぶ や  
選 夫 紀 崎 大

行く年を惜しみゆつくり髭を剃る  
久世孝雄

小春日やボール蹴り蹴り子等が来る  
有賀昌子

飛行機雲冬の入日へ延びゆけり  
松村光典

逃げてゆく冬日に急ぐ針仕事  
山本久枝

初詣孫の願ひをそつと聞く  
浅嶋肇

熱燗やいつもの数で席を立ち  
安斉正蔵

冬海網の干さるる番屋裏  
石塚清文

電線を並木に括り年の市  
大野芳久

来客の靴の向き変へ冬ぬくし  
岡田香緒里

鯛焼きの温もりを待つ列に入る  
小池一司

七草や三勺ほどの米を磨ぎ  
齋藤朋子

山茶花や犬の墓標は石ひとつ  
佐々木あつ子

こまこまと予定書きあり古曆  
橋本美代

声かけて焚火の列に入りけり  
広瀬 济

とげぬきに参る度買ふ冬帽子  
本郷美代子

枇杷の花

藤井美晴

黒ずめる点滴跡に冬日差す  
寒灯下活字の大き書を選ぶ  
消灯ののち暖房の風の音  
田作りの一尾をはがす摘み食ひ  
アザインのこゑ元日のテレビより  
元朝の道にケバブのにほひかな  
四月午後近所の宮に詣でけり  
飛行機の音仰ぎつつ凧を揚ぐ  
葱を買ふ午後の散歩のかへりみち  
枇杷の花静かに雨の降る日かな

葱畑

菊池洋子

山茶花のこぼるる垣にうす日さす  
自家用のひと畝のこる葱畑  
数寄屋への敷石ぬれて青木の実  
あつあつのぶり大根に口とがり  
いつせいに川上へたつ鴨の声  
ぶつ切りの葱どつさりと葱鮪鍋  
まなじりの涼しき巫女に受く破魔矢  
神木の瘤に日のさし初鴉  
肩の子の破魔矢の鈴の鳴り通し  
ぐつぐつと鍋のたぎりて外は雪

冬 鴟

秋山信行

風邪おして子は正眼に構へをる  
葱すこし敵に残れる夕鴟  
冬鴟や風の抜けゆく屋敷跡  
雨雲の沖にひろがる冬鷗  
菜園のをちこちに枯野菊かな  
鳩の湖とほくに舟の影ふたつ  
山茶花の散り敷く兄の墓前かな  
銀舍利に目玉と落とす寒卵  
早梅や当て子のずれし六地藏  
冬萌の野を横切りて県道へ

春 隣

天野美登里

縁側に残る日向や糸編む  
枯芒昨夜よりの雨あがりけり  
城跡に潮にほひけり小六月  
冬浅し人の影踏む遊びして  
山道に夜来る深山櫛かな  
鱈酒を着くやいなやに頼みけり  
縁側の小さき電球年の宿  
新年の畑を鳥のほり返す  
春を待つ畑の隅に小石積み  
春隣洗濯物は揺れてある川

初日記

安藤久美子

今日からはポインセチアを飾る窓  
伊豆の海左に右は蜜柑山  
どんみりと空鰯起こし轟けり  
テーラーの窓に冬服裏通り  
目覚めゐて布団のなかに小半時  
初日記すらすら筆の進みけり  
城址の陽だまりの椅子冬堇  
松過ぎの雨に舗道も街路樹も  
大川のさざなみに群れ浮寝鳥  
着ぶくれのふたりが二人掛けの椅子

行く年

久世孝雄

凍雲の影をかすめて鳩の群  
鴨の群れ日向の岸に上陸す  
つつと来て三尺飛んで浜千鳥  
幾年も空き家の庭に石露の花  
冬の蜂弱き日差しにしがみつく  
太き竹叩けばかんと冬の音  
空つ風木目の粗き神楽殿  
柚子の香の湯気に溶け込む終ひ風呂  
凧をさへぎる路地を選びつつ  
行く年を惜しみゆつくり髭を剃る

小春日

有賀昌子

暮早し地下の画廊の版画展  
小春日やボール蹴り蹴り子等が来る  
悴む手で笹竹を摩る占ひ師  
やつと手が出て重ね着の袖とほる  
紀伊国屋でばつたり孫に会ふ小春  
バイバイをすする幼子に時雨くる  
渋柿を剥いて吊るして軒の下  
県境過ぎてひらひらひらと雪  
背をまるめ猿が焚火に寄り来る  
煤逃げや夫と息子と鰻屋へ

元日

松村光典

稽古あと句集をひらくクリスマス  
山茶花の花弁は二つ石だたみ  
冬うらら子どもを抱いて犬抱いて  
元日のレストランから富士おがむ  
小寒の風として身にしみわたる  
晴れののち午後は曇となりけり  
飛行機雲冬の入日へ延びゆけり  
冬の日には花高々とアロエ咲く  
初めての霜柱なり踏んでみる  
冬入り日まぶしき道を走りけり

水溜りの落葉ふみふみ子ら遊ぶ  
 朝刊をポストに取りに初氷  
 帰り来る子らの蒲団を干しにけり  
 隙間よりビー玉出づる煤払ひ  
 ひととせの無事を感謝の札納め  
 数へ日や工事現場は閉ざされて  
 初詣警護の声の聞えくる

森美佐子

思ひがけぬ友の励まし冬ぬくし  
 冬枯れて老いには老いの悩みあり  
 冬帽子相好くずす立話  
 煤払ひ猫のじやれきてはかどら  
 新しき友もひとり居年の暮れ  
 晴れ続き日々はかどりし年用意  
 初暦めぐりて願ふこと多し

柳田美代子

## ◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン9	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	横浜・大棧橋	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月3日(金)のなごみ会は武蔵浦和コミセン3です。

4月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR根岸線・関内駅南口改札口(東京から来て一番前)。吟行地は、横浜の大棧橋・山下公園・港の見える丘公園。句会場は、神奈川近代文学館。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733  
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ

逃 げ て ゆ く 冬 日 に 急 ぐ 針 仕 事  
鴨 一 羽 水 を 叩 い て 立 ち 上 が る  
飛 行 機 雲 ひ と 刷 け 長 く 冬 の 空  
水 仙 の 香 り に 御 座 す 五 百 羅 漢  
多 摩 川 の 流 れ ゆ る や か 冬 木 の 芽  
汲 み 置 し バ ケ ヲ ツ に 氷 丸 く 解 け  
退 任 の 花 束 受 く る 春 隣

山本久枝

玉 砂 利 を 草 履 引 き ず り 七 五 三  
外 風 呂 の 湯 気 ゆ く 庭 に 冬 紅 葉  
天 心 の 墓 は 落 葉 に 囲 ま れ て  
冬 風 の 湾 に ブ イ 浮 く 六 角 堂  
月 の 月 山 容 ほ の と 明 る く す  
恙 な く 年 過 ぎ に け り 札 納 め

湯本正友